

平成 29 年 2 月 10 日

(臨床研究に関する公開情報)

南和歌山医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 胃 ESD における手術場全身麻酔群と内視鏡室鎮静群の比較検討

[研究責任者] 木下幾晴 南和歌山医療センター 消化器科 医師

[研究の概要]

早期胃癌の治療として ESD (内視鏡的粘膜下層剥離術) は標準手技となっています。この方法により病変の大きさに関わらず切除可能となったことは大きな利点ですが、反面処置に時間がかかります。合併症なく治療を安全に行うため、全身麻酔を行って治療をしています。当科では内視鏡室で行うことを基本としていますが、長時間の治療が予想される場合や基礎疾患などで内視鏡室で行うことが危険と判断した場合に手術場で麻酔科の管理のもと ESD を行っています。そのような選択をした利点、選択の科学的な妥当性について研究します。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

早期胃癌の患者さんで、平成 22 年 6 月 1 日から平成 29 年 1 月 31 日の間に ESD (内視鏡的粘膜下層剥離術) を受けた方

●利用する検体、カルテ情報

カルテ情報：

診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果 (血液検査、画像検査、心電図検査)、診療記録 (内視鏡処置記録、麻酔記録)、病理診断結果

[個人情報の取扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

国立病院機構南和歌山医療センター

木下幾晴 消化器科 医師

電話 0739-26-7050(代表) 消化器科 FAX 0739-24-2055